

(付録)

## 「マクスウェルの方程式：真空中（２）」

1. 電磁波（光波）の姿：真空中
2. エネルギー密度
3. ポインティング・ベクトル
4. 絵解き：ポインティング・ベクトル
5. ポインティング・ベクトル：再確認
6. 両者の関係
7. 付録：ベクトル解析

### 注意

1. 本付録：「マクスウェルの方程式：微分型」を使用
2. マクスウェルの方程式を数学的に取扱います。
3. マクスウェルの方程式の物理的な意味、導出に至る背景などは「付録：204、205」で確認してください。
4. 平面波のみを対象とします。
5. 磁性体は扱いません。透磁率は常に「真空中の透磁率」になります。

## おことわり

電場でお馴染みの「E」と「D」

本付録では「電場E」、「電束密度D」と記す。

単位

- 電場E : electric field
- 電束密度D : electric flux density
- 電気変位D : electric displacement field
- C : クーロン

$V/m$

$C/m^2$

磁場でお馴染みの「H」と「B」

注意：英語ではHもBもmagnetic fieldと呼ばれる。混同しやすい。

本付録では「磁場H」、「磁場B」と記す。

単位

- 磁場H : magnetic H field
- 磁場の強さ : magnetic field intensity
- 磁場B : magnetic B field
- 磁束密度 : magnetic flux density
- T : テスラ、Wb : ウェーバー

$A/m$

$T = Wb/m^2$

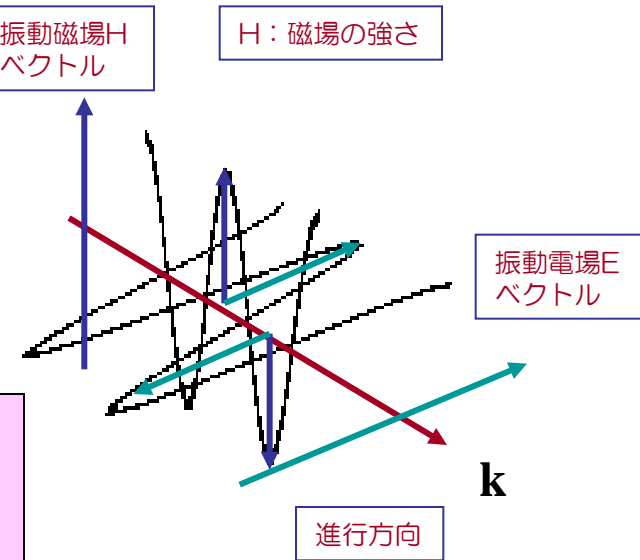
振幅ベクトル：直線偏波（直線偏光）  
初期位相零：正実数（赤字）として扱う

# 電磁波（光波）の姿：真空中

簡単のため：平面進行波 Plane traveling wave

$$\mathbf{E}(\mathbf{r}, t) = \mathbf{E}_0 \cos(\omega t - \mathbf{k} \cdot \mathbf{r}), \quad \mathbf{E}_0 = (E_{0x}, E_{0y}, E_{0z})$$

$$\mathbf{H}(\mathbf{r}, t) = \mathbf{H}_0 \cos(\omega t - \mathbf{k} \cdot \mathbf{r}), \quad \mathbf{H}_0 = (H_{0x}, H_{0y}, H_{0z})$$



質問：もし、自然界がマクスウェルの方程式で記述されるなら

- 真空中に波として振舞う電場と磁場が存在する。特徴は？

答え：右図参照

- 電場や磁場は時間振動すると同時に同じ位相速度で進む「縦波」
- 振動電場のみ振動磁場のみの存在は不可
- 振動電場と振動磁場はいつも一緒：電磁波
- 電場と磁場の振動方向は直角（進行方向：電場→磁場へ右ねじ）
- ちなみに「光波」は「電磁波」の一種です。（参照：201-1）

重要な関係：右手系

波数ベクトルの大きさ

$$\mu_0 \omega \mathbf{H}_0 = \mathbf{k} \times \mathbf{E}_0$$

$$|\mathbf{k}| = \omega / c_0$$

振幅ベクトル：振動電場Eと振動磁場H

真空中の光速

$$\mu_0 \omega |\mathbf{H}_0| = |\mathbf{k}| |\mathbf{E}_0| \xrightarrow{|\mathbf{k}| = \frac{\omega}{c_0}} |\mathbf{E}_0| = \mu_0 c_0 |\mathbf{H}_0|$$

再確認：真空中

- 振動電場Eと電束密度Dは平行
- 振動磁場HとBは平行
- 進行方向：電場→磁場へ右ねじ

$$\mathbf{D} = \epsilon_0 \mathbf{E}, \quad \mathbf{B} = \mu_0 \mathbf{H}$$

$$\mathbf{E}_0 \perp \mathbf{H}_0 \perp \mathbf{k} \rightarrow \mathbf{E} \perp \mathbf{H} \perp \mathbf{k}$$

# エネルギー密度 (1)

目的：電磁波エネルギー密度とポインティング・ベクトルの関係をマクスウェルの方程式から調べる

ベクトル解析の公式からスタート：参照603-15

$$\mathbf{div}(\mathbf{E} \times \mathbf{H}) = \mathbf{H} \cdot \mathbf{rot} \mathbf{E} - \mathbf{E} \cdot \mathbf{rot} \mathbf{H}$$

$$\nabla \cdot (\mathbf{E} \times \mathbf{H}) = \mathbf{H} \cdot (\nabla \times \mathbf{E}) - \mathbf{E} \cdot (\nabla \times \mathbf{H})$$

ファラデーの電磁誘導の法則  
Faraday's law of induction

右辺第一項

計算例：参照

$$\nabla \times \mathbf{E} = -\frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t} = -\mu_0 \frac{\partial \mathbf{H}}{\partial t} \quad \mathbf{H} \cdot (\nabla \times \mathbf{E}) = \mathbf{H} \cdot \left( -\mu_0 \frac{\partial \mathbf{H}}{\partial t} \right) = -\frac{\partial}{\partial t} \left( \frac{1}{2} \mu_0 \mathbf{H} \cdot \mathbf{H} \right)$$

アンペールの法則 (変位電流追加)  
Ampère's circuital law with displacement current

$$\nabla \times \mathbf{H} = \frac{\partial \mathbf{D}}{\partial t} = \varepsilon_0 \frac{\partial \mathbf{E}}{\partial t} \quad -\mathbf{E} \cdot (\nabla \times \mathbf{H}) = -\mathbf{E} \cdot \left( \varepsilon_0 \frac{\partial \mathbf{E}}{\partial t} \right) = -\frac{\partial}{\partial t} \left( \frac{1}{2} \varepsilon_0 \mathbf{E} \cdot \mathbf{E} \right)$$

重要な関係式

$$\nabla \cdot (\mathbf{E} \times \mathbf{H}) = -\frac{\partial U_{em}}{\partial t}, \quad \because U_{em} = \frac{1}{2} \varepsilon_0 \mathbf{E} \cdot \mathbf{E} + \frac{1}{2} \mu_0 \mathbf{H} \cdot \mathbf{H}$$

## エネルギー密度（２）

単位の確認

$$\frac{1}{2} \epsilon_0 \mathbf{E} \cdot \mathbf{E} \rightarrow \left[ \frac{\text{s}^4 \cdot \text{A}^2}{\text{m}^3 \cdot \text{kg}} \right] \left[ \frac{\text{V}}{\text{m}} \right]^2 \xrightarrow[\text{J}=\text{W} \cdot \text{s}]{\text{W}=\text{V} \cdot \text{A}} \left[ \frac{\text{s}^2 \cdot \text{J}^2}{\text{m}^5 \cdot \text{kg}} \right]$$

$$\xrightarrow{\text{J}=\text{N} \cdot \text{m}=\text{kg} \cdot \frac{\text{m}}{\text{s}^2} \cdot \text{m}} \left[ \frac{\text{J}^2}{\left( \text{kg} \cdot \frac{\text{m}}{\text{s}^2} \cdot \text{m} \right) \cdot \text{m}^3} \right] = \left[ \frac{\text{J}}{\text{m}^3} \right]$$

単位から推察すると  
振動電場Eのエネルギー密度

単位から推察すると  
振動磁場Hのエネルギー密度

$$\frac{1}{2} \mu_0 \mathbf{H} \cdot \mathbf{H} \rightarrow \left[ \frac{\text{m} \cdot \text{kg}}{\text{s}^2 \cdot \text{A}^2} \right] \left[ \frac{\text{A}}{\text{m}} \right]^2 \rightarrow \left[ \frac{\text{kg}}{\text{s}^2 \cdot \text{m}} \right] = \left[ \left( \text{kg} \frac{\text{m}}{\text{s}^2} \right) \frac{1}{\text{m}^3} \right] \rightarrow \left[ \frac{\text{J}}{\text{m}^3} \right]$$

単位体積当たりの電磁波エネルギー（エネルギー密度）：真空中

$$U_{em} = \frac{1}{2} \epsilon_0 \mathbf{E} \cdot \mathbf{E} + \frac{1}{2} \mu_0 \mathbf{H} \cdot \mathbf{H}$$

振動電場Eのエネルギー密度

振動磁場Hのエネルギー密度

単位体積当たりの電磁波エネルギー  
別名：エネルギー密度

1. 振動電場Eのエネルギー密度
2. 振動磁場Hのエネルギー密度
3. 両者の和：電磁波エネルギー密度
4. 振動電場と振動磁場はいつも一緒：電磁波

# ポインティング・ベクトル（１）

単位の確認

$$\mathbf{E} \times \mathbf{H} \rightarrow \left[ \frac{\text{V}}{\text{m}} \right] \left[ \frac{\text{A}}{\text{m}} \right] \rightarrow \left[ \frac{\text{W}}{\text{m}^2} \right]$$

ポインティング・ベクトルの導入

1. Poynting vector
2. Poyntingは考案者の名前
3. John Henry Poynting

$$\mathbf{S} = \mathbf{E} \times \mathbf{H}$$

単位から推測すれば、ポインティング・ベクトルは単位面積（断面積）当たりの電磁波パワーに相当

1. パワー：電気回路で言えば「電力」「仕事率」に等しい！
2. 仕事率：「単位時間内にどれだけのエネルギーが仕事で消費されるか」を示す物理量である。
3. 電磁波の場合：「単位時間内にどれだけのエネルギーが断面積を通過するか」を示す物理量である。
4. 単位断面積：「絵解き」で考える！（603-8）

重要な関係式：参照：603-4

$U_{em}$ ：電磁波エネルギー密度

$$\nabla \cdot (\mathbf{E} \times \mathbf{H}) = -\frac{\partial U_{em}}{\partial t},$$

$$\therefore U_{em} = \frac{1}{2} \epsilon_0 \mathbf{E} \cdot \mathbf{E} + \frac{1}{2} \mu_0 \mathbf{H} \cdot \mathbf{H}$$

式の意味：大雑把に言えば

1. 右辺：「ある領域（単位体積）」内の電磁波エネルギー「 $U_{em}$ 」の単位時間当たりの減少量
2. 右辺：「 $U_{em}$ 」は「電磁波エネルギー密度」と呼ばれる。
3. 左辺：「ある領域（単位体積）」から単位時間内に流出する「正味の」電磁波エネルギー

## ポインティング・ベクトル (2)

ポインティング・ベクトルの導入：定義

$$\mathbf{S} = \mathbf{E} \times \mathbf{H}$$

重要な関係式：参照：603-4

$U_{em}$ ：電磁波エネルギー密度

$$\nabla \cdot \mathbf{S} = -\frac{\partial U_{em}}{\partial t},$$

$$\therefore U_{em} = \frac{1}{2} \epsilon_0 \mathbf{E} \cdot \mathbf{E} + \frac{1}{2} \mu_0 \mathbf{H} \cdot \mathbf{H}$$

左辺：「ある領域（単位体積）」から単位時間内に流出する「正味の」電磁波エネルギー

簡略化

$$\mathbf{S} = (0, 0, S_z)$$

微小領域

$$\Delta V = \Delta x \Delta y \Delta z$$

青枠の意味：次頁参照

「微小領域」から単位時間内に流出する正味の電磁波エネルギー  
「正味の流出量」とは？：流出量－流入量

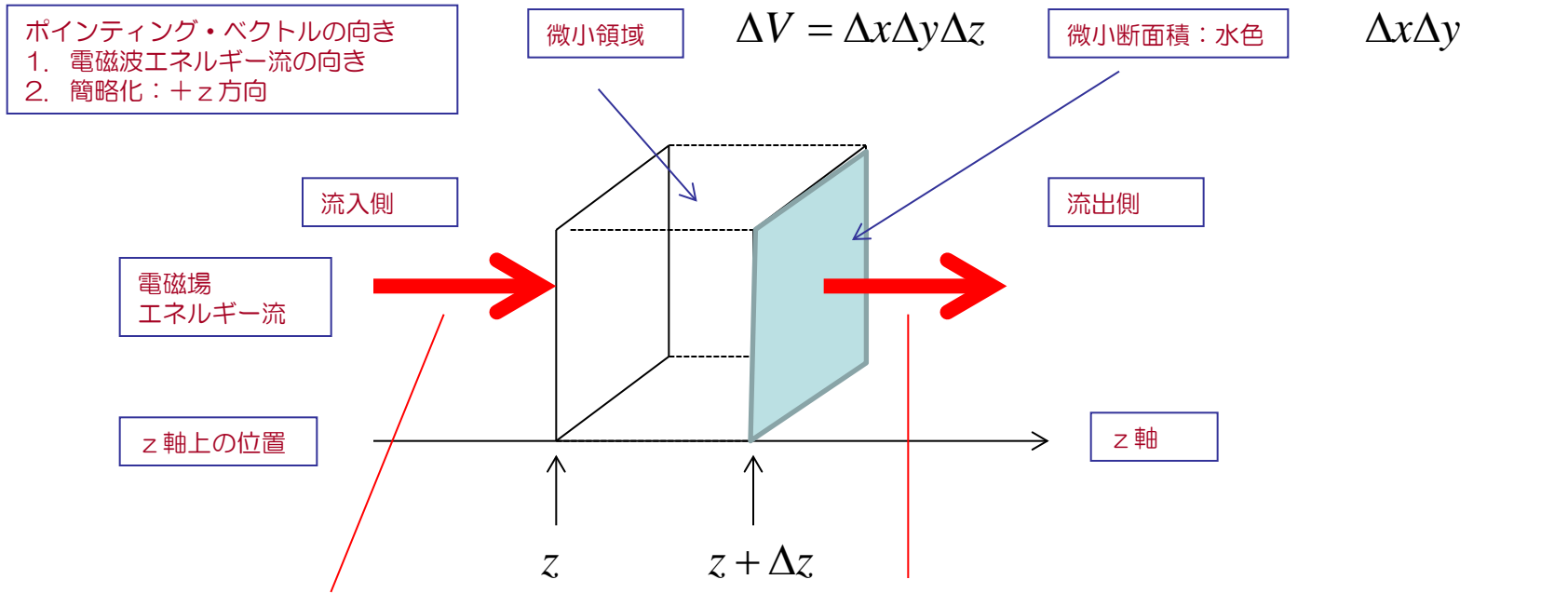
流入量

単位時間内に「微小領域」に流入する電磁波エネルギー

$$(\nabla \cdot \mathbf{S}) \Delta V = \frac{\partial S_z}{\partial z} \Delta V \approx \frac{S_z(z + \Delta z) - S_z(z)}{\Delta z} \Delta V = \underbrace{S_z(z + \Delta z) \Delta x \Delta y} - \underbrace{S_z(z) \Delta x \Delta y}$$

流出量：単位時間内に「微小領域」から流出する電磁波エネルギー

# 絵解き：ポインティング・ベクトル（１）



単位時間内に「微小領域」に流入する電磁波エネルギー  
 • 微小断面  $\Delta x \Delta y$  を +z 向きに通過する電磁波エネルギー

「微小領域」から流出する電磁波エネルギー  
 • 微小断面  $\Delta x \Delta y$  を +z 向きに通過する電磁波エネルギー

流入量：位置 z

$$S_z(z) \Delta x \Delta y$$

流出量：位置 z + Δz

$$S_z(z + \Delta z) \Delta x \Delta y$$

$S_z$  (赤線部分)：ポインティング・ベクトルの z 成分  
 1. 単位時間内に単位断面積を通過する電磁波エネルギー  
 2. 通過する方向：ポインティング・ベクトルの向き (+z 方向：右側)

微小断面積：水色

$$\Delta x \Delta y$$

正味の流出量

$$S_z(z + \Delta z) \Delta x \Delta y - S_z(z) \Delta x \Delta y \approx (\nabla \cdot \mathbf{S}) \Delta V$$



# 絵解き：ポインティング・ベクトル（2）

簡略化しません！

$$\mathbf{S} = (S_x, S_y, S_z)$$

微小領域

$$\Delta V = \Delta x \Delta y \Delta z$$

青枠の意味：次頁参照

「微小領域」から単位時間内に流出する正味の電磁波エネルギー、「正味の流出量」とは？：流出量－流入量

$$\begin{aligned}
 (\nabla \cdot \mathbf{S}) \Delta V &= \left( \frac{\partial S_x}{\partial x} + \frac{\partial S_y}{\partial y} + \frac{\partial S_z}{\partial z} \right) \Delta V \approx \frac{S_z(z + \Delta z) - S_z(z)}{\Delta z} \Delta V \\
 &+ \frac{S_x(x + \Delta x) - S_x(x)}{\Delta x} \Delta V + \frac{S_y(y + \Delta y) - S_y(y)}{\Delta y} \Delta V
 \end{aligned}$$

総流出量

総流入量

$$\begin{aligned}
 = & \left[ \begin{array}{l} S_x(x + \Delta x) \Delta y \Delta z \\ S_y(y + \Delta y) \Delta z \Delta x \\ S_z(z + \Delta z) \Delta x \Delta y \end{array} \right] - \left[ \begin{array}{l} S_x(x) \Delta y \Delta z \\ S_y(y) \Delta z \Delta x \\ S_z(z) \Delta x \Delta y \end{array} \right]
 \end{aligned}$$

単位時間内に「微小領域」に流入する電磁波エネルギー

- 第一行：+x 向きに流入
- 第二行：+y 向きに流入
- 第三行：+z 向きに流入

単位時間内に「微小領域」から流出する電磁波エネルギー

- 第一行：+x 向きに流出する電磁波エネルギー
- 第二行：+y 向きに流出する電磁波エネルギー
- 第三行：+z 向きに流出する電磁波エネルギー

「正味の流出量」とは？

- 総流出量－総流入量

# ポインティング・ベクトル：再確認（1）

ポインティング・ベクトルの各成分： $\mathbf{S} = (S_x, S_y, S_z)$

各成分の物理的意味：単位時間内に

1.  $S_x$ ：単位断面積（ $x$ 方向に垂直な面）を通過する電磁波エネルギー：通過方向： $+x$ 方向
2.  $S_y$ ：単位断面積（ $y$ 方向に垂直な面）を通過する電磁波エネルギー：通過方向： $+y$ 方向
3.  $S_z$ ：単位断面積（ $z$ 方向に垂直な面）を通過する電磁波エネルギー：通過方向： $+z$ 方向

全体で考えると：ポインティング・ベクトルで電磁波エネルギー流（大きさ&向き）を表現

1. ポインティング・ベクトルの大きさ：単位時間内に単位断面積を通過する電磁波エネルギー
2. ポインティング・ベクトルの向き：通過方向（断面積はベクトルの向きと垂直な面）

単位断面積・単位時間当たりの電磁波（光波）エネルギーの流量  
ポインティング・ベクトル

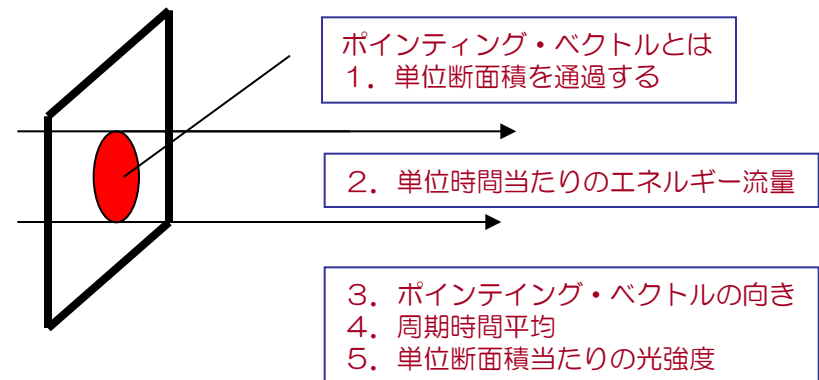
ポインティング・ベクトル  
ベクトルの向き：流れる方向

$$\mathbf{S} = \mathbf{E} \times \mathbf{H}$$

単位断面積当たり光強度：参照：206-6  
求め方：ポインティング・ベクトルの周期時間平均  
単位： $W/m^2$

$$\bar{\mathbf{S}} = \overline{\mathbf{E} \times \mathbf{H}}$$

光強度について興味がある場合：参照：206-6



# ポインティング・ベクトル：再確認（2）

## ポインティング・ベクトル

- ベクトルの大きさ：単位断面積・単位時間当たりの電磁波（光波）エネルギーの流量
- ベクトルの向き：流れる方向

$$\mathbf{S} = \mathbf{E} \times \mathbf{H}, \quad \therefore \mathbf{S} = (S_x, S_y, S_z)$$

ところが：発散（divergence）を考えると

- 微小領域  $\Delta V$  に関して
- 単位時間内に流出する「正味の」電磁波エネルギー

$$(\nabla \cdot \mathbf{S}) \Delta V = \left( \frac{\partial S_x}{\partial x} + \frac{\partial S_y}{\partial y} + \frac{\partial S_z}{\partial z} \right) \Delta V$$

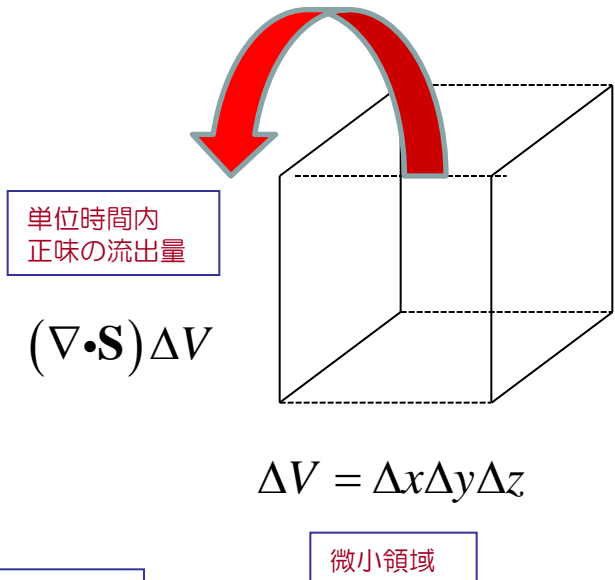
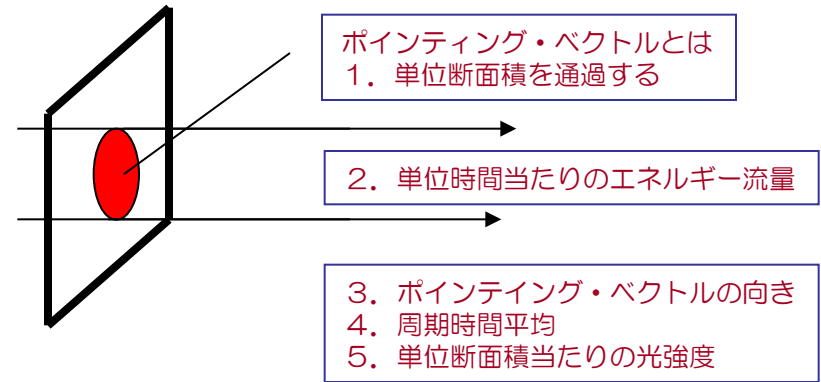
重要な関係式

微小領域  $\Delta V$  を省略：参照：603-4

$$(\nabla \cdot \mathbf{S}) \Delta V = - \frac{\partial U_{em}}{\partial t} \Delta V \quad \rightarrow \quad \nabla \cdot \mathbf{S} = - \frac{\partial U_{em}}{\partial t}$$

式の意味：微小領域  $\Delta V$  に関して

- 左辺：単位時間内に流出する「正味の」電磁波エネルギー
- 右辺：「微小領域内」電磁波エネルギー「 $U_{em}$ 」の単位時間当たりの減少量
- $U_{em}$ ：電磁波エネルギー密度



# 電磁波エネルギー密度：流れとは無関係

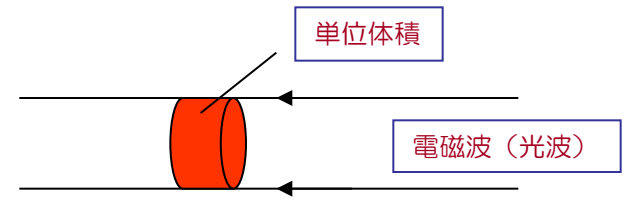
電磁波エネルギー密度：詳細は  
参考文献：和田純夫「電磁気学のききどころ」  
p.112、岩波書店

電磁波（光波）のエネルギー密度  
ある時刻、ある空間に注目：単位体積に含まれる電磁波エネルギー

$$U_{em} = \frac{1}{2} \epsilon_0 \mathbf{E} \cdot \mathbf{E} + \frac{1}{2} \mu_0 \mathbf{H} \cdot \mathbf{H}$$

真空の誘電率

真空の透磁率



ある時刻に限定：  
定在波でも進行波でも光エネルギーの定義は同じ

# 単位断面積・単位時間当たりの電磁波（光波）エネルギーの流量 ポインティング・ベクトル

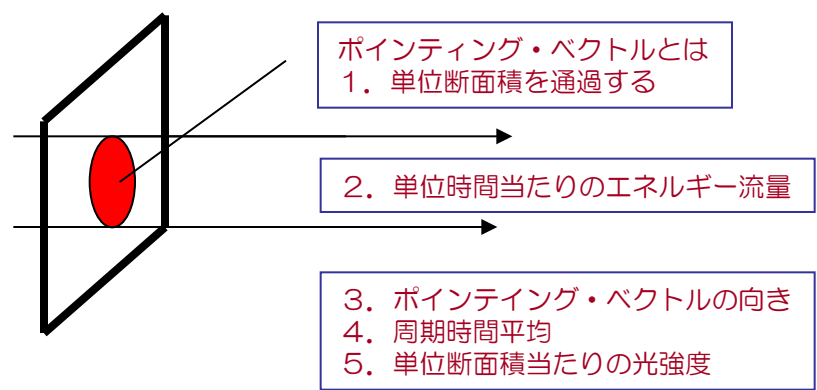
ポインティング・ベクトル  
ベクトルの向き：流れる方向

$$\mathbf{S} = \mathbf{E} \times \mathbf{H}$$

単位断面積当たり光強度：参照  
求め方：ポインティング・ベクトルの周期時間平均  
単位：W/m<sup>2</sup>

$$\bar{\mathbf{S}} = \overline{\mathbf{E} \times \mathbf{H}}$$

光強度について興味がある場合：参照：206-6



## 両者の関係 (1)

簡単のため：電場Eはx成分のみ、磁場Hはy成分のみ、波数ベクトルはz成分のみ

$$\mathbf{E}(\mathbf{r}, t) = \mathbf{E}_0 \cos(\omega t - \mathbf{k} \cdot \mathbf{r}), \quad \mathbf{E}_0 = (E_0, 0, 0) \rightarrow E_x(z, t) = E_0 \cos(\omega t - kz)$$

$$\mathbf{H}(\mathbf{r}, t) = \mathbf{H}_0 \cos(\omega t - \mathbf{k} \cdot \mathbf{r}), \quad \mathbf{H}_0 = (0, H_0, 0) \rightarrow H_y(z, t) = H_0 \cos(\omega t - kz)$$

重要な関係式：参照：603-4

$U_{em}$ ：電磁波エネルギー密度

$$\nabla \cdot (\mathbf{E} \times \mathbf{H}) = -\frac{\partial U_{em}}{\partial t}, \quad \because U_{em} = \frac{1}{2} \epsilon_0 \mathbf{E} \cdot \mathbf{E} + \frac{1}{2} \mu_0 \mathbf{H} \cdot \mathbf{H}$$

ポインティング・ベクトル：z成分のみ

$$\mathbf{S} = \mathbf{E} \times \mathbf{H}, \quad \because \mathbf{S} = (S_x, S_y, S_z)$$

$$S_x = 0, S_y = 0, S_z = E_x H_y = E_0 H_0 \cos^2(\omega t - kz) \xrightarrow{H_0 = \frac{E_0}{\eta}} \frac{E_0^2}{\eta} \cos^2(\omega t - kz)$$

$$\xrightarrow{\eta = \frac{1}{c_0 \epsilon_0}} S_z = c_0 \epsilon_0 E_0^2 \cos^2(\omega t - kz)$$

## 両者の関係 (2)

$U_{em}$  : 電磁波エネルギー密度

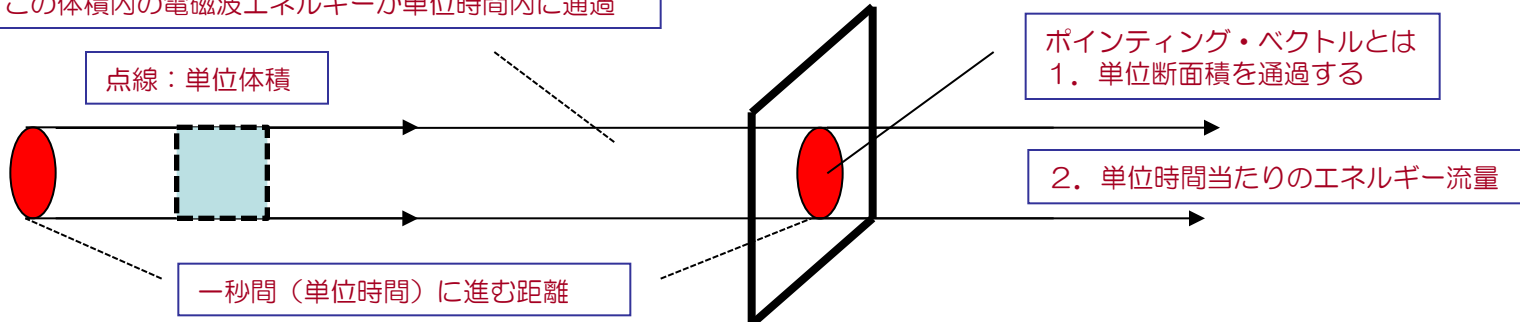
$$\begin{aligned}
 U_{em} &= \frac{1}{2} \epsilon_0 \mathbf{E} \cdot \mathbf{E} + \frac{1}{2} \mu_0 \mathbf{H} \cdot \mathbf{H} \rightarrow \frac{1}{2} \epsilon_0 E_0^2 \cos^2(\omega t - kz) + \frac{1}{2} \mu_0 H_0^2 \cos^2(\omega t - kz) \\
 &= \frac{1}{2} \epsilon_0 E_0^2 \cos^2(\omega t - kz) + \frac{1}{2} \mu_0 \left( \frac{E_0}{\eta} \right)^2 \cos^2(\omega t - kz) \\
 &\xrightarrow{\eta = \sqrt{\mu_0 / \epsilon_0}} \epsilon_0 E_0^2 \cos^2(\omega t - kz)
 \end{aligned}$$

関係式

1. 単位断面積・単位時間当たりの電磁波（光波）エネルギーの流量は
2. 「単位体積内に含まれる電磁波エネルギー」×「一秒間（単位時間）に進む距離」に等しい。
3. 即ち、「電磁波エネルギー密度」×「真空中の光速」に等しい。
4. 電磁波エネルギー密度：単位体積内に含まれる電磁波エネルギー
5. 単位体積：単位断面積と単位長さの積
6. 光速：一秒間（単位時間）に進む距離

$$|\mathbf{S}| = c_0 U_{em}$$

円筒：この体積内の電磁波エネルギーが単位時間内に通過



## 付録：ベクトル解析（1）

ベクトル解析の公式

$$\nabla \cdot (\mathbf{E} \times \mathbf{H}) = \mathbf{H} \cdot (\nabla \times \mathbf{E}) - \mathbf{E} \cdot (\nabla \times \mathbf{H})$$

$$\mathbf{E} = (E_x, E_y, E_z), \quad \mathbf{H} = (H_x, H_y, H_z)$$

$$\mathbf{H} \cdot (\nabla \times \mathbf{E}) - \mathbf{E} \cdot (\nabla \times \mathbf{H})$$

$$= (H_x, H_y, H_z) \cdot \left( \frac{\partial E_z}{\partial y} - \frac{\partial E_y}{\partial z}, \frac{\partial E_x}{\partial z} - \frac{\partial E_z}{\partial x}, \frac{\partial E_y}{\partial x} - \frac{\partial E_x}{\partial y} \right)$$

$$- (E_x, E_y, E_z) \cdot \left( \frac{\partial H_z}{\partial y} - \frac{\partial H_y}{\partial z}, \frac{\partial H_x}{\partial z} - \frac{\partial H_z}{\partial x}, \frac{\partial H_y}{\partial x} - \frac{\partial H_x}{\partial y} \right)$$

$$= H_x \left( \frac{\partial E_z}{\partial y} - \frac{\partial E_y}{\partial z} \right) + H_y \left( \frac{\partial E_x}{\partial z} - \frac{\partial E_z}{\partial x} \right) + H_z \left( \frac{\partial E_y}{\partial x} - \frac{\partial E_x}{\partial y} \right)$$

$$- E_x \left( \frac{\partial H_z}{\partial y} - \frac{\partial H_y}{\partial z} \right) - E_y \left( \frac{\partial H_x}{\partial z} - \frac{\partial H_z}{\partial x} \right) - E_z \left( \frac{\partial H_y}{\partial x} - \frac{\partial H_x}{\partial y} \right)$$

## 付録：ベクトル解析（2）

続き

$$\begin{aligned}
 \mathbf{E} \times \mathbf{H} &= (E_y H_z - E_z H_y, E_z H_x - E_x H_z, E_x H_y - E_y H_x) \\
 \nabla \cdot (\mathbf{E} \times \mathbf{H}) &= \frac{\partial}{\partial x} (E_y H_z - E_z H_y) + \frac{\partial}{\partial y} (E_z H_x - E_x H_z) + \frac{\partial}{\partial z} (E_x H_y - E_y H_x) \\
 &= \frac{\partial}{\partial x} (E_y H_z) + \frac{\partial}{\partial y} (E_z H_x) + \frac{\partial}{\partial z} (E_x H_y) - \frac{\partial}{\partial x} (E_z H_y) - \frac{\partial}{\partial y} (E_x H_z) - \frac{\partial}{\partial z} (E_y H_x) \\
 &= E_y \frac{\partial H_z}{\partial x} + H_z \frac{\partial E_y}{\partial x} + E_z \frac{\partial H_x}{\partial y} + H_x \frac{\partial E_z}{\partial y} + E_x \frac{\partial H_y}{\partial z} + H_y \frac{\partial E_x}{\partial z} \\
 &\quad - E_z \frac{\partial H_y}{\partial x} - H_y \frac{\partial E_z}{\partial x} - E_x \frac{\partial H_z}{\partial y} - E_x \frac{\partial H_z}{\partial y} - E_y \frac{\partial H_x}{\partial z} - H_x \frac{\partial E_y}{\partial z} \\
 &= H_x \left( \frac{\partial E_z}{\partial y} - \frac{\partial E_y}{\partial z} \right) + H_y \left( \frac{\partial E_x}{\partial z} - \frac{\partial E_z}{\partial x} \right) + H_z \left( \frac{\partial E_y}{\partial x} - \frac{\partial E_x}{\partial y} \right) \\
 &\quad - E_x \left( \frac{\partial H_z}{\partial y} - \frac{\partial H_y}{\partial z} \right) - E_y \left( \frac{\partial H_x}{\partial z} - \frac{\partial H_z}{\partial x} \right) - E_z \left( \frac{\partial H_y}{\partial x} - \frac{\partial H_x}{\partial y} \right)
 \end{aligned}$$